



—「当たり前」を支える

曙の光が差し込むのを合図に人々は目覚め、活動を始めます。通勤・通学の人、何かに向かって頑張る人、つかの間の休息を取る人、活動を終えて帰宅する人、十人十色の当たり前の日常があります。8万人が暮らす蒲郡で、一人ひとりが当たり前の毎日を当たり前前に過ごせるように手助けをすること、それが私たち市役所の役割です。

今年度新たに職員が採用され、職員の平均年齢は36才になりました。昨年より更に若返りを図ったことで、市民の当たり前を継続することに加え、市に新しい風を吹かせることを期待しています。私たち市役所の仕事を、採用2年目の若手職員の声とともにお伝えします。

市民の笑顔が活力と自信に

相談に来る方の多くが初めは不安な面持ちでいっぱいですが、親身になって話をじっくりと聞くことで最後は笑顔で帰られます。その笑顔が「市民のためにもっと頑張りたい」という私の活力の源になるとともに、相談を通して自分自身の知識向上と自信にも繋がっています。

長寿課 今野



若手技師、奮闘中！

側溝整備や舗装補修などの道路の維持管理は、市民生活に直結している仕事であり、とてもやりがいを感じています。私は、蒲郡市を今まで以上に安全で住みやすい街にしていきたいと考えています。そのために、土木技師として日々の仕事の一つ一つと真剣に向き合っています。

土木港湾課 岡安

